

捨てられる命

先日、娘が“可哀相で見てられない”という番組を見た。NHK 教育「みんな生きている」。子供向けだが身勝手な飼い主に見てほしい番組だった。秋田県の動物管理センターでの捨て犬の実態をドキュメントしたもの。1年で2000頭がガス殺処分された。諸事情によって飼い主から持ち込まれた犬(8割)や迷い犬(2割)だ。譲渡会やインターネットによる新たな飼い主探しで救える命は1~2割。貰い手のない成犬(5~6頭が限度)を救おうとしつけや愛情を注いでいる職員の奮闘振りが印象に残った。日本では20年前まで60~80万頭の犬猫が処分されていたが、近年は野犬の減少、不妊手術の周知、一般譲渡などによって年々減少し現在は40万頭弱。国も“処分から救命へ”の行政指導を促し餌代やワクチン代の助成金を出すようになったが自治体の取組みはまちまちで救える命の猶予期間も3~11日。保健所持ち込み常習もいて説得するも罵倒され引き取るしかない法の壁。保健所で殺されるよりはと山の中に捨てる飼い主はもっと残酷。雌犬は何度もはらまされ衰弱し雄犬はいじめぬかれ死ぬという。捨てられた場所で飼い主が迎えにくるのを待っている犬の“命のボタン”をあなたは押せますか?ガス殺処分は安楽死ではない。



世界の民族衣装

ハク通信

2008.6.1 発行
第44号

発行人
芳賀美代子

今月の一品
上州名物
焼きまんじゅう



群馬県内誰でも知っているおやつ。餡のない薄い素まんじゅうを竹串に刺し、黒砂糖や水飴で甘くした味噌だれを裏表に刷毛でぬり火にかけ焦げ目をつけたもの。起源は幕末と古く、昔は縁日の露店で食べたとか。県内に100店舗以上ある焼きまんじゅうも全国的な知名度は今1つ。店では焼きたてが食べられるが地方発送もしている。



世界遺産 リラ修道院

ブルガリアの首都ソフィアから120kmの山奥にブルガリア正教の総本山「リラ修道院」がある。要塞のような姿は相次ぐ敵の襲来や天災に備えるため。中央の聖堂内部や回廊は鮮やかな宗教画で埋め尽くされている。



バラ祭り：ブルガリアはバラの名産地。「バラ谷」と呼ばれる地域で数百年前より栽培。ダマスクローズというバラから採られるローズオイルは1g2万円。高級香水に使われ世界市場の7割を占める。5月から6月にかけて「バラ祭り」が盛大に行なわれ、色とりどりの民族衣装を着た女性がバラ摘みし、伝統的な音楽や民族舞踊が披露される。水牛やヤギの乳で作った自家製ヨーグルトで世界の長寿国に。

第六の栄養素 (生命を維持するための五大栄養素は糖質 食物繊維「こんにやく」 脂質・蛋白質・ビタミン・ミネラル)

今年度からメタボリックシンドロームに着目した生活習慣病予防のための「特定健康診査」がスタート。40~74歳の保険加入者が対象。自治体によって違うが会津若松市は6月下旬に受診券が郵送され集団健診千円又は医療機関1200円で受けられる。メタボは関係ないと思っている人へ。従来の基本健診は廃止になり尿検査・血液検査は「特定健康診査」で受診しないと自腹に。(心電図検査がない)生活習慣病を防ぐには運動と食事。注目されるのは穀類、芋類、豆類、野菜、海藻、きのこなどの食物繊維。こんにやくは“腸の砂おろし”といって元々薬草として中国より伝来したものでノカリー食品。様々な加工商品の中で注目の一押しはインスタントの「こんにやくパスタ」。シコシコうどんのように旨い1食。



芳賀家ライブラリー 秘のおすすすめ本

世界では日常の医療であった心臓移植が日本ではなぜできないのか。19年前に医者である筆者が未来を想定して書いた。

加賀乙彦：講談社文庫



教授夫人の Cooking

じゃがいものバター醤油煮



<材料>じゃがいも4コ
バター30g 砂糖小2
醤油大1 水1と1/4cp
<作り方>じゃがいもの皮をむき1コを2~3に切る。5分程水にさらし水分をきる。鍋に材料を入れ、落とし蓋をして弱めの中火で12~3分煮る。最後に鍋の蓋を取って煮汁を蒸発させる。